

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091300105		
法人名	株式会社 ケア21		
事業所名	グループホームたのしい家七隈		
所在地	福岡県福岡市城南区七隈7-8-15		
自己評価作成日	平成26年2月17日	評価結果確定日	平成26年3月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajigokensaku.jp/40/index.php?action=kouhou_detail_2013_022_kani=true&JigyoNoCd=4091300105-00&PrefCd=40&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター
所在地	福岡市博多区博多駅東2-6-1九勸筑筑通ビル9階
訪問調査日	平成26年3月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

たのしい家七隈に関わる全ての皆様が笑顔で過ごす事が出来るホーム作りを大事にしています。ご入居者様の今まで過ごされてきた人生を大切に、お一人お一人のちからを信じて出来ることへの支援をさせて頂きながら生きがい作りのお手伝いや、昔から馴染みのある習慣に配慮し、季節折々の行事参加や地域交流を深め、安全・安心感のある生活を送って頂きます。またグループホームという役割を理解し、地域における高齢者や認知症の方への理解を深められる機会へ繋がる支援や地域の方々への生きがい支援(ボランティア等を通じて)も担っていき、地域に根ざしていけるホーム運営を行います。また家族様とご入居者様への関係作り継続支援や家族会の役割も果たす重要性に配慮させて頂きます。そして何より、ご入居者様・家族様・地域の方・職員・関係機関の方々等が、たのしい家七隈という大きな家族の中で、共に考え、皆で助け合っている関係構築を図っていきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、大阪が本社であり有料老人ホームやデイサービス等介護事業を展開している。住宅街の中にあるグループホームで、静かでゆったりと生活ができる環境である。
『ご入居様・ご家族様・地域の皆様・職員が共に笑顔でたのしく過ごせ愛されるホームを目指します』など4つの「たのしい家七隈の誓い」という事業所独自の理念を掲げ、職員自らこの理念に基づく実践を行っている。
管理者が看護師であり、家族も安心して預けることもでき、医療面に力を入れ、この業はどのような効果があるのか等、職員に周知されている。
この地域に馴染むように、日頃から密に自治会、地域包括センターと連絡を取り合っており、運営推進会議には、入居者、地区の他のグループホームも参加しているいろいろな意見を出し合っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設理念をフロアの見える場所に掲示しており、折に触れて復唱している。また会社理念は朝の申し送り時にひと月を通してコンプライアンスマニュアルの一部として復唱している。	設立時に職員全員で、「たのしい家七隈の誓い」という4つの理念を掲げ、申し送り時に唱和している。理念の中に、「季節折々の行事へ参加していただく」という言葉が入っており、季節の節目を大切にす支援を行い、理念に基づいた実践を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	公民館や老人いこいの家での地域活動に定期的に参加し、他、自治会での回覧板にて地域活動情報収集に努め、施設行事として組み込んだりし、地域との繋がりを積極的にもつ様にしている。また近所の保育園児との交流も不定期ではあるが図れている。	地域のそば作りやソーメン流し等には、声をかけてもらい入居者も参加している。また、月1回公民館で実施される「黒田節体操」にも参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当施設の自治会や隣りの自治会で、認知症の方やケア等について地域住民の方へ講演をさせて頂いた。また「七隈カフェ」を毎月1回当施設内で開催する事で、実際にご入居者様と地域の方々、家族様、関係機関の方々等との交流を図れる機会をもっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	1回/2カ月開催し、ご入居者様・家族様・自治会長様・民生委員・包括・社会福協議会・地域の地域密着型サービス事業所・当社スタッフ・行政等の参加のもと、サービス内容や当施設の課題、アンケート実施等で得た意見などをサービス向上に活かしている。	事業所へ薬を配達する薬剤師が、家族とも話したいという意向があり、運営推進会議のメンバーに入ってもらっている。会議の中で、家族からどんな行事があっているかわからないという意見が出たため、イベント表を作って渡す等会議で出た意見を活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	直接市に当スタッフ等が出向いて質問・相談等をしたり、運営推進会議や他事業所での運営推進会議・区地域密着型サービス部会・七隈カフェ等にて交流を図りながら当施設の様々な実際を伝え、協力関係構築に努めている。	何かあれば主に区役所へ質問をする等、連携を密にしている。ボランティアの相談を、福岡市社会福祉協議会や、城南区社会福祉協議会、城南区等へ相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年1回身体拘束についての社内研修を行い、身体拘束にあたる内容理解・拘束をしないケアへの取り組みに努めている。	以前尿道管を外さないために、家族からの依頼もあり、同意書をとってつなぎ服を着用していた利用者もいた。しかし、本人の状態も落ち着き、2ヶ月でつなぎ服の着用を中止している。1階の玄関は、夜間以外開錠しているが、各ユニットのドアは、事故防止のために、入居者の負担ならない範囲で施錠してる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年1回虐待の防止についての社内研修を行い、虐待にあたる内容理解・虐待をしないケアへの取り組みに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や後見人制度を活用されているご入居者様がいる為、学ぶ機会がある。	入居以前から日常生活支援事業と後見人制度を活用されている方だった為、手続き等を職員が行ったことはないが、今後必要となった場合は、管理者やケアマネが窓口として動く予定である。	権利擁護に関すること等を、全体ミーティングの時に管理者が職員へは伝達研修という形で伝えている。どの職員が見てもわかるように研修の記録を残していくことを期待する。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約等の際はきちんと不安や疑問点等をその場で尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。また改定等の際は運営推進会議や文書、口頭等でその旨を伝えることもしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や弊社からのサービス満足度アンケート実施、意見箱の設置等を行いながら、常に意見や要望を聞ける環境作りに努めている。	往診の先生を1人から2人へ増やしてほしいと家族からの要望を受け、家族アンケートを実施した結果、往診の先生を2人に増やしている。また、本社から家族へアンケートが配布されており、回収先が本社ということで、自由に意見を出せるような環境が整備されている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各階における毎月のミーティングや全体会議、適宜の個別面談、弊社からの職員満足度アンケート等を行い意見交換の場を設けている。	相談等がある場合には、フロアリーダーか管理者へ、どちらにも言いづらい場合には、本社へ話ができるよう体制が作られている。また職員同士の飲み会等で、コミュニケーションをとっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課(誰伸び制度)にて加点主義に伴う評価に応じた給与体制や、残業をしない環境整備を図る為、個々の意見を聞いたり会議等で他事業所の良い効果がある業務改善の取り組み等を参考にして努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している。	募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しない様にしており、各個人の良い部分を見つける配慮を心掛けています(定年制度撤廃)また弊社のほめる社風によりありがとう・ほめカードやコーチング研修を通して職員がやりがいをもって働ける様に努力しています。	2枚複写になっている、「ありがとう・ほめカード」が会社全体であり、1枚はありがとうを伝えたい相手へ渡し、もう1枚は本社へ提出している。毎月21日は、ほめカードの日と制定され、年1回「ありがとう・ほめカード」の提出が多い人達が表彰され、海外研修への機会が与えられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	社内における人権研修の機会や日々の申送りやミーティング、会議等で人権侵害がおこらない様に日々各々で気をつけてケアを実践出来る様に相手の立場になって物事を考える視点を大切にしている。	管理者は常日頃から、「自分の親がされた時どう思うか」ということを念頭に置いて、利用者に関わってほしいと職員へ伝えている。また、例えば「失禁」という言葉ではなく、「おズボンが濡れている」という言葉にかえる等の工夫をし、入居者の人権を尊重するための周知を行っている。	人権に関わることを、全体ミーティングの中で伝達研修として管理者から職員へ伝えているが、研修記録が残されていなかった。誰が見てもわかるように研修記録を残すことを期待する。
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内・外での研修や技術研修等様々な情報を回覧板や口頭にて提供を行い、機会の確保に努めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区地域密着型サービス部会や他施設の運営推進会議等に参加し相互の情報交換やサービスの質向上に向けての交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前に本人が想っている様々な事に対して気軽に話しやすい環境に配慮する為、施設内での面談に限らず、本人の安心感がもてる環境配慮や関係構築に努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前に家族が想っている様々な事に対して気軽に話しやすい環境に配慮する為、施設内での面談に限らず、家族の安心感がもてる環境配慮や関係構築に努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「その時」に必要な支援を行うために本人や家族の実情や要望等を把握し他のサービスとの併用対応に努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の希望や出来る力を信じ、必要最低限の支援を行いながら役割り支援に努め、尊敬の想いをもちながら一緒に過ごしていく関係作りに努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の希望や本人の出来る力を信じ、必要最低限の支援を行いながら役割り支援に努め、両者に尊敬の想いをもちながら一緒に過ごしていく関係作りと家族関係支援に努めている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に地域活動の場に参加していた方はその生活習慣を継続できるように調整援助を行ったり、家族や関係職種などより情報収集に努め、馴染みの人や場所との関係が途切れない配慮を行っている。また外出等でのその様な場所を考慮している。	1ヶ月に2回、地域のふれあいサロン(昼食を地域の方と一緒に食べる)に、継続して行っている利用者もおり、馴染みの人との関係を保っている。また、地域の包括支援センターの職員から入居前の利用者の状況や、家族について等情報を収集し、支援につなげている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係を把握し、孤立を防ぐ為にも職員が仲介役を通して円満な関係作りに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても便りを送ったりなどし、何か必要な際は相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族などよりフェイスシートやアセスメント等を通じて情報収集に努め、困難な場合は個別対応を行い本人本位に検討している。	家族、本人、地域包括支援センターの職員から、入居前の様子を詳しく聞き取りしている。個人ごとのファイルに記録して、情報を共有し把握している。遠方の家族には、電話での聞き取りをしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	関係職種からの情報収集や本人、家族からの情報把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申送りやミーティング等を通じて過ごし方、有する力の現状把握に努めている。また心身状態も医師や看護師、薬剤師等への情報収集に配慮している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族、関係者との話す機会を適宜もつ様に心掛け、申し送りやミーティング、担当者会議を通して現状に即した介護計画立案に配慮している。	入居者の日頃の様子から、身近に接している職員や家族は、本人に必要な介護計画を担当者会議で細かく立て、短期計画ごとに評価、適宜見直しをし、記録している。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫等を個別記録や連絡ノート、ミーティング等で情報共有しながら実践や介護計画見直しに活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のその時々ニーズに対応が出来る様に既存概念に捉われない柔軟な支援等サービスの多機能化に努め、また他施設等の良い部分を取り入れていく様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	包括、地域住民ほか様々な地域のマンパワーを利用できるように配慮している。公民館での体操や文化祭などの参加。自治会でのイベント参加ほか。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と本人、家族の関係構築が図られるように、希望を大切にしながら医療を受けられる様、医療機関とのコミュニケーションや情報の共有化に努められる様に配慮している(診療前の情報提供や日々の報告・相談など)	ユニットごとに、月に2回の往診を受けられるように支援している。家族の希望で医療機関の選択ができるようにし、管理者が看護師なので、本人・家族・職員の安心につながっている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康面で職員が気づいた事は適宜施設看護師や往診の看護師へ報告し、異常の早期発見に努めている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院側へ入院前の施設内での健康面に関する情報提供者や面会時の情報は往診医や看護師、家族へ情報提供する等し、早期退院に向けて配慮している。また病院関係者との関係作りが行えるように、地域医療連携室などへ顔を出すなどする様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療機関や家族、施設などで看取りの方針を決め、チームでその方針を共有しながら、本人や家族の希望に沿える援助が出来る様に努めている。	急変時にも、職員はきちんと対応している。重度化する入居者の家族へも説明をし、希望を聞き支援している。今後、予測される体調の変化に気をつけるように、管理者は職員に伝えている。ミーティングや申し送りで情報把握をしている。	これから重度化や終末期にそなえて、職員の内部研修を行い、研修記録を残すようにして、体制作りができることを期待する。
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルやフローチャート作成、救急等に対する社内研修等を通して実践力向上に努めている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施している。その際地域の方への案内も行いながら協力体制構築を図れるように努め、全職員が避難できる方法を身につける様に努めている。また災害時に持参する備品セットも準備している。	入居者と一緒に、昼間と夜間体制を想定して火災避難訓練を実施している。避難後の集合場所の確認もされている。建物内で、火元から遠くに避難することも今後予定されている。	備蓄品として、飲料水は準備されていたが、地域の避難場所として、他の品物も今後は用意し、安心安全に災害時に備えることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入社時研修や社内での接遇研修などを受講、伝達研修を行い、周知に努めている。また不適切な対応があれば適宜注意をしている。	管理者は、職員には入居者を自分の親ならとの思いで接して欲しいと伝えている。入居者の身だしなみにも心がけて、自尊心が傷つかないように声かけをしている。居室の引き戸は自由に開閉でき、入居者の判断にまかせている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人とのコミュニケーションを大切にし、また希望表出や自己決定ができる環境作りを大切にしている。せかさない介護を大事にしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人主体で考え、望む生活が出来る支に努めている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月一回の訪問理容の活用やマニキュア塗り、また日々の洋服も本人の好みを大切に、選択出来る声掛けや関わり方を常に考えてケアに努めている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や盛り付けなどを一緒に行い、役割支援につながる様に支援している。	外注した食材で個々の能力に応じ、職員と一緒に調理して、フライパンから小鉢に盛り付けて配膳していた。職員と一緒に会話を弾ませながら食事をし、完食されていた。近くの店に買い物に行き食事作りをする時もある。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は職員が把握し、接種困難時は摂取できるような工夫を行っている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎週訪問歯科の往診を受けられる方などは歯科医師や衛生士より口腔ケアに関する助言をもらったり、看護師からの助言をもらうなどして、本人の口腔状態に適した、本人のちからに応じたケアに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表や記録を参考にし、個人の排泄パターンを考慮したうえで自立支援に向けたケアを看護師等とも情報交換・共有化を図りながら支援している。	入居者の排泄パターンを把握して、なるべく皮膚トラブル防止に布パンツを使うようにしている。夜間対応は、居室にポータブルトイレを置かずに、職員が付き添い自立支援につなげている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の水分量、排便有無や性状、回数などの情報を記録管理しながら、適宜看護師と共に考えながら便秘予防や食べ物の工夫、運動への取り組み等考慮している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日は設定しているが、汗をかいたからシャワーを浴びたい、昼間入る気分にならなかったから夕方入るなど、個々に沿った支援に努めている。また毎月変わり湯と題して、季節を感じられる入浴剤や植物・食べ物なども活用しながら入浴の更なる楽しみに配慮している。	浴室には、可動式の浴槽が設置されて、個人の状態に合わせて個浴対応し、入居者の様子で職員が感じ取り異性介護を改めたりしている。よもぎやゆずを使い、二十四節気が感じられる工夫をしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	照明具合や室温など環境に配慮しながら個々の状況に合わせた支援を行っている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬説明書を参考にしながら、適宜薬剤師や看護師などに質問や確認を行いながら、服薬支援(観察なども)を行っている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事活動や園芸、創作、囲碁、行事参加、外出、外食など様々な活動を季節折々、各個人に合った役割、楽しみごとの支援を行っている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	買物レクを1回/週企画しており、そこでの外出や散歩、その他の買い物、また家族様と協力して普段行けない様な所でも、なるべく希望に沿える援助を行っている。	近所の店へは一緒に歩いて買い物に行ったり、普段の会話から今度はどこに外食に行こうかと相談し、職員も楽しく外出支援をしている。ユニットごとにマイクロバスで忘年会に家族と一緒に出かけている。個人の行動把握は、職員間で共有し、対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持したい方へは、家族とも相談・了解のもと財布や金庫管理などできるように支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話での制限はなく、手紙も季節の折に触れて他者とのやりとりが出来る様にレクレーショントしても取組み、また定期的に本人や家族とのやりとりを継続しているケースには自由に行ってもらっている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じて頂ける環境配慮への工夫等を中心に、清潔・温度・音楽・植物(花などによる)のにおい等留意している。	ほとんどの入居者がリビングで過ごしているため、見守りやすい。誕生日にホームから贈られる花や、家族が持ってくる花が飾られている。加湿空気清浄機が数台置かれている。ユニットごとに壁の色や家具が違い、ゆったりとした広いスペースがある。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやリクライニングチェアの活用、また適宜過ごしやすい空間作りをする為に混乱を招かない程度のレイアウト変更などを行っている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族の要望を取り入れている。	居室は広く、腰の高さから天井までの窓で十分明かりとりができています。パソコン、ぬいぐるみ、仏壇など入居以前の馴染みのある品物をそばに置いている。居室で昔のアルバムを見て過ごしている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	原則的なバリアフリーでの環境の中でできること、わかることを踏まえて自立支援を行っている。		